

平成29～28（2017～2016）年度

共通教育科目

《共通教育科目 建学の精神》

| | | | |
|---------------------------|--|----------|--------------|
| 科目名 | 宗教と人生 | 科目ナンバリング | C1011LG G004 |
| 担当者氏名 | 本多 彩 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・必修 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 1-2 子どもを援助し、成長へと誘う使命感 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 | | |

《授業の概要》

本講義では、兵庫大学の「建学の精神」と仏教について理解を深める。また宗教へ多角的にアプローチすることによって宗教に対する理解を進める。この場合の宗教とは、制度化された体系だけを指すのではなく、宗教心や宗教性も含んだ広義の宗教である。さらに、いくつかの宗教（特に仏教）の体系を知ることによって、“価値”や“意味”といった計量化できない問題に取り組む力を養う。

《授業の到達目標》

- ・「建学の精神」への理解を深め、自らの言葉で説明できるようになり、兵庫大学学生としての自覚を涵養する。
- ・日常生活領域に潜むさまざまな宗教を通して、①人間や世界や生や死について考え自分自身を見つめなおしていくきっかけとし、②異文化や他者理解を促進する。
- ・社会で起こっている様々な課題を仏教という視点からとらえなおし説明することができる。

《成績評価の方法》

受講態度（講義中の質問、建学の精神に関する宗教行事への参加を含む）30%、レポート 20%、定期テスト50%、この3項目で評価する。
分らないことは、オフィスアワー等で質問を受け付ける。

《テキスト》

特定のテキストは使わない。講義時に配布するプリントを中心に進める。

《参考図書》

講義内で適宜紹介する。

《授業時間外学習》

建学の精神に関連する宗教行事への積極的な参加
 定例礼拝 毎週水曜日 12時15分～
 宗教セミナー
 宗教ツアー
 花まつり法要 など

《備考》

身の回りの「宗教的なもの」をさがしてみよう。
 仏教の本を読んでみよう。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|---------------------|---|
| 1 | 宗教とは何か | 誤解されがちな宗教についてその機能を理解し説明することができる。 |
| 2 | 宗教の種類 | 分布や特徴によって分けられる宗教の種類を理解し説明することができる。 |
| 3 | 世界の宗教：諸宗教の価値体系と意味体系 | 世界の諸宗教がもつ価値観を学び、その多様性について理解し説明することができる。 |
| 4 | 建学の精神① | 建学の精神である和と聖徳太子について学び説明することができる。 |
| 5 | 建学の精神②：学内宗教ツアー | 学内の宗教施設をめぐるという体験を通して各施設の説明をすることができるようになり、建学の精神への理解を進める。 |
| 6 | キリスト教を知る① | キリスト教の歴史や教えを学びその特徴を説明することができる。 |
| 7 | キリスト教を知る② | キリスト教が現代社会に与えた影響とユダヤ教について学び説明することができる。 |
| 8 | イスラームを知る | イスラームの歴史や教えを学びその特徴を説明することができる。 |
| 9 | 仏教を知る① | 建学の精神にある仏教について、釈尊の生涯とその教えを理解し説明することができる。 |
| 10 | 仏教を知る② | 初期仏教の展開と社会とのかかわりについて学び説明することができる。 |
| 11 | 仏教を知る③ | 大乘仏教の広がりや特徴について理解し説明することができる。 |
| 12 | 日本の仏教を知る① | 日本仏教の特徴と展開について理解し説明することができる。 |
| 13 | 日本の仏教を知る② | 日本の浄土系仏教の流れと教えについて理解し説明することができる。 |
| 14 | 建学の精神③ | 兵庫大学の建学の精神について理解を深め共有しお互いに説明し合うことができる。 |
| 15 | 建学の精神④ | 兵庫大学生としての誇りを持ち、建学の精神と自身の将来との関連を自分の言葉で説明することができる。 |

| | | | | |
|---------------------------|---|-------|----------|-------------------|
| 科目名 | 日本語(読解と表現) | | 科目ナンバリング | C1011L◇-001 |
| 担当者氏名 | 野田 直恵、吉田 唯、中本 茜 | | | |
| 授業方法 | 演習 | 単位・必選 | 2・選択必修 | 開講年次・開講期 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 | | | |

《授業の概要》

大学での学習・就職活動および、日常生活・社会生活などにおいて必要な、漢字・慣用表現・文章表現法・敬語の用法といった日本語の基礎的知識と表現のあり方を学ぶ。原則として、課題の答え合わせ・説明のあと、設問に取り組むというスタイルで授業をすすめる。

《授業の到達目標》

漢字・慣用表現、内容が伝わりやすい文や文書の書き方、敬語の適切な用法など、日本語の基本的な表現方法を身につける。それによって日本語についての知識を深め、コミュニケーション能力を高める。

《成績評価の方法》

授業時に複数回実施する課題の提出(50%)と学期末試験(50%)によって評価する。提出物には状況に応じてコメントを付し、返却する。授業の到達目標に対しては、全体の講評を行い、次年度目標に反映させる。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|--------------------------|---|
| 1 | ガイダンス 漢字の習得 | 授業についての説明 ※ () はテキストの該当箇所。 (第1課) 「漢字習得の近道」漢字を習得するための効果的な方法 |
| 2 | 敬語の種類 同音異義語 | (第25課) 「待遇表現①」さまざまな敬語の種類とその用法 (第2課) 「同音異義語」同音異義語の識別方法 |
| 3 | 敬意の表現 同訓異義語 | (第26課) 「待遇表現②」敬語の使い分けや言い回しを通じた敬意の表現法 (第3課) 「同訓異義語」同訓異義語の識別方法 |
| 4 | 手紙の形式 生活の中の難読語 | (第15課) 「手紙と葉書①」手紙などの基本的な書き方 (第4課) 「音訓と熟語」特別な読み・難しい読みの日常語 |
| 5 | 手紙の文面 熟語の成り立ち | (第16課) 「手紙と葉書②」手紙や葉書の文面を書くときの注意点 (第5課) 「熟語の構造」熟語の意味のとらえ方 |
| 6 | 一般的な文書の書式 生活の中の四字熟語 | (第20課) 「ビジネス文書」会社などにおける書類の形式 (第6課) 「四字熟語」誤用しやすい四字熟語 |
| 7 | さまざまな文書の書式 送り仮名の付け方 | (第17・21課) 「日誌」・「案内状」さまざまな文書の書式 (第7課) 「仮名遣いと送り仮名」仮名と日本語 |
| 8 | 文の書き方 生活の中の慣用表現 | (第8課) 「文のしくみ」文の内容をわかりやすくする工夫 (第13課) 「慣用表現の誤用」慣用表現の本来の意味と誤用の例 |
| 9 | 文と文章 日本語の表記 | (第9・10課) 「文章構成」・「文章の要約」文章としての文の組み立て方 (第14課) 「原稿用紙の使い方」縦書き・横書きにおける表記法の違い |
| 10 | 思考と言葉 感情と言葉 | (第11・12課) 「アイデアの開発」・「レトリック」柔軟な発想と道具としての言葉 (第24課) 「広告のキャッチコピー」言葉が感情に与える作用 |
| 11 | 文章をまとめる方法 他者の文章に学ぶ事 | (第22課) 「レポート・小論文」論文の基本的な構造 (第23課) 「論説文と批評文」目的によって異なる文章の書き方 |
| 12 | 自身について知るべき事 自身を表現する手段 | (第18・19課) 「履歴書」・「エントリーシート」言葉がもたらす印象 (第30課) 「面接の作戦・自己アピール」言葉の効果的な用い方 |
| 13 | 敬語表現の応用 | (第27・28課) 「来客の応対」・「電話の応対」敬語表現の復習 |
| 14 | 言葉が表現にしめる位置 | (第29課) 「プレゼンテーション」総合的な表現 |
| 15 | 授業のまとめ | 授業全体についてふり返り、授業内容をまとめる。 |

《テキスト》

丸山顯徳編『キャリアアップ国語表現法』(嵯峨野書院)

《参考図書》

資格試験対策研究会編『漢字検定2級頻出度順問題集』(高橋書店)

佐藤一明『秘書検定3級に面白いほど受かる本』(KADOKAWA)

佐藤一明『秘書検定2級に面白いほど受かる本』(KADOKAWA)

他は授業時に紹介する。

《授業時間外学習》

当日の授業の復習をしたうえで与えられた課題を解き、次回の授業で取り組む内容を予習しておく。また、日本漢字能力検定などの受検も視野に入れた学習を心がけるようにする。

わからないことは担当者に遠慮なく質問してください。

《備考》

国語辞典(電子辞書可)の積極的な活用を心がけること。

テキスト改訂により学習内容を変更する場合がある。

| | | | |
|---------------------------|--|----------|-------------|
| 科目名 | 英語 | 科目ナンバリング | C1011L◆●002 |
| 担当者氏名 | Michael.H.FOX | | |
| 授業方法 | 演習 | 単位・必選 | 2・選択必修 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 | | |

《授業の概要》

日本の英語教育制度の目標は、受験合格に他ならない。大学受験英語は非常に難しく、英語が嫌いと言う学生も多い。しかしながら、受験英語の成績と英会話の能力は一切関係なく、受験英語がどうしてもできないと言う人でも、英会話を修得することができる。このコースの主な特徴は、外国人講師からゆっくりと親切な指導を受け、国際理解と英会話の上達を目指すものである。

《授業の到達目標》

国際理解を深めて、コミュニケーションを重視する。生きている英語を楽しみながら身につける。

《テキスト》

教科書『Talk Time Student Book 1』を購買部で購入。先輩から古本を受けることは禁止。

《参考図書》

毎週、英語の曲を聴取し、プリントを配布。

《授業時間外学習》

宿題以外、テレビの広告・電車内のポスター・T-シャツ等の英語をよく注目せよ。

《成績評価の方法》

成績評価は、毎回の講義における参加意欲・学力伸張を80パーセント、学期末に行う試験を20パーセントとする。外国語を修得するためには、できるだけその言語を集中して勉強する必要がある。そこで出席を重視し、ぜひ精一杯に努力すること。分らないことはoffice hour等で質問を受け付ける。

《備考》

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|----------------------------|----------------|
| 1 | Introduction & Orientation | 自己紹介をする |
| 2 | Describing People | 人を述べる事 |
| 3 | Everyday Activities | 毎日の活動・習慣を喋る |
| 4 | Food and Drinks | 食べ物と飲み物の話 |
| 5 | Snacks | スナックの世界 |
| 6 | Housing | 家・住宅をデザインし、話す事 |
| 7 | Free Time Activities | 暇と活動 |
| 8 | Popular Sports | 人気なスポーツは？ |
| 9 | Life Events | 一生の一大事な行事 |
| 10 | Weekend Plans | 週末を過ごす |
| 11 | Movies | 映画が好きですか？ |
| 12 | TV Programs | テレビとその番組 |
| 13 | Health Problems | 健康と病気 |
| 14 | On the telephone | 電話の言葉 |
| 15 | まとめ or 自己評価 | まとめ or 自己評価 |

| | | | |
|---------------------------|--|----------|-------------|
| 科目名 | 英語 | 科目ナンバリング | C1011L◆●002 |
| 担当者氏名 | 野寄 一恵 | | |
| 授業方法 | 演習 | 単位・必選 | 2・選択必修 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 | | |

《授業の概要》

保育園や幼稚園で必要となる英語を中心に、日常生活に関係する英会話に慣れる。また、幼児向けの遊び歌やその他の英語の歌を聞き、歌い、英語に親しむと同時に、子どもに教えられるようにする。

《テキスト》

Maiko Tsuchiya著 Happy English for Childcare
金星堂

《参考図書》

《授業の到達目標》

英語が必要な状況になった時に、簡単なフレーズの英語がすぐ口から出るようにする。子ども向けの英語の歌を見ないで歌えるようにする。

《授業時間外学習》

音声ファイルの無料ダウンロードを行い、必ず予習として音声を聞き、テキストの空欄を埋めておく。また毎回小テストを行うので、指定されたフレーズを覚えておく。

《成績評価の方法》

成績評価は日頃の学習の積み重ねを重視し次の項目で評価する
 1) 授業参加(小テスト) 50%、2) 復習テスト 20%、
 3) 発表 30%
 復習テストはテスト用紙に、発表は別の用紙に、それぞれコメントを記入して返却・配布する。

《備考》

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|--|---|
| 1 | Unit 1 Hi, I'm Yuri Tanaka | 授業方針説明とクラスのルール クラブルームイングリッシュ 自己紹介 人に何かを頼む表現 |
| 2 | Unit 2 Where Is the Multi-purpose Room? | 位置を伝える表現 戸外での道案内 |
| 3 | Unit 3 Good Morning. How Are You Today? | 登園時の会話 今日の調子を聞く、答える表現 |
| 4 | Unit 4 What Color Do You Like? | 好きなもの、嫌いなものを聞くWhat の |
| 5 | Unit 5 There's a Ladybug on the Leaf | 場所をあらわ明日表現 教室内の物の場所を示す |
| 6 | Unit 6 It's Time to Play Outside | 人に何かするよう・しないよう言う表現 英語で「桃太郎」を読む |
| 7 | Unit 7 She Is Allergic to Eggs | 食に関する好き嫌い、アレルギーの有無を伝える表現 |
| 8 | Unit 8 You Should Go to the Bathroom | しなければならないこと、する必要があることを伝える表現 |
| 9 | Unit 9 We Made Masks Today | 一日の活動と様子を伝える表現 |
| 10 | Unit 10 If It Rains, What Happens? | 「もし、～なら」という仮定の表現 |
| 11 | Unit 11 What Shall We Do Today? | Shall I/we～とWill you～?を用いた表現 |
| 12 | Unit 12 I Feel Feverish | 病気やけがの症状を伝える表現 |
| 13 | Unit 13 This Is Yuri from ~ | 電話応対に便利な表現 |
| 14 | Unit 14 Thank You Very Much for Everything | お礼の表現 動きの表現 誕生日カード |
| 15 | 復習テスト | 発表と復習テスト |

| | | | |
|---------------------------|---|----------|-------------|
| 科目名 | コンピュータ演習 | 科目ナンバリング | C1011L◆-003 |
| 担当者氏名 | 河野 稔 | | |
| 授業方法 | 演習 | 単位・必選 | 2・選択必修 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 | | |

《授業の概要》

大学・短大での学習活動に必要となる「情報リテラシー」、つまりICT（情報通信技術）による情報を活用する能力の修得を目指します。
 ネットワーク上の情報の活用、文書作成、データ処理、プレゼンテーションなど、ソフトウェアやサービスを利用するための技能を学習します。また、システムの仕組みや機能、情報倫理など、情報社会を生きる上で欠かせない知識も学習します。

《授業の到達目標》

- パソコンやインターネットを学生生活の道具として適切に利用できる。
- 目的にあわせてソフトウェアやシステムを選択して情報の収集・編集・発表に活用できる。
- ICTを活用して、日々生み出される膨大な情報を判断し、取捨選択できる。

《成績評価の方法》

実習での提出課題（70%）と情報倫理および総合的な演習での提出物（30%）で評価します。
 なお、提出課題と提出物にはルーブリック等を用いて評価をフィードバックするとともに、わからないことはオフィスアワー等で質問を受け付けます。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|-----------------|---------------------------------------|
| 1 | オリエンテーション | 授業全体の説明／コンピュータ実習室の利用手続き／コンピュータ実習室の利用 |
| 2 | 学内ネットワークシステムの利用 | 学内システムの利用／Webメールの利用／eラーニングの利用 |
| 3 | インターネット(1) | インターネットとコミュニケーション |
| 4 | インターネット(2) | インターネットと情報検索 |
| 5 | インターネット(3) | ウェブの最新トピック、情報倫理 |
| 6 | プレゼンテーション(1) | 文字による基本的なプレゼンテーションの作成 |
| 7 | プレゼンテーション(2) | 図やアニメーションを利用したスライドの作成／プレゼンテーションのまとめ課題 |
| 8 | 文書作成(1) | レポート形式の文書による基礎的な文書の作成 |
| 9 | 文書作成(2) | 文書のデザインとレイアウト／文書作成のまとめ課題 |
| 10 | データ処理(1) | 表形式データの簡単な処理とグラフ作成 |
| 11 | データ処理(2) | 関数を利用した処理とグラフの活用／データ処理のまとめ課題 |
| 12 | 総合的な演習(1) | 情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成 |
| 13 | 総合的な演習(2) | 情報倫理を啓発するプレゼンテーションの作成および提出・公開 |
| 14 | 総合的な演習(3) | プレゼンテーションの相互評価、演習問題の作成 |
| 15 | 総合的な演習(4)／まとめ | 相互評価の結果の集計／授業全体のふり返り |

《テキスト》

- 毎回の授業で、授業内容を説明したプリントを配布します。
- 配布したプリントやその他の資料などは、eラーニングのシステムや授業用のWebサイトで公開します。

《参考図書》

- 矢野文彦監修(2013)『情報リテラシー教科書 Windows 8/Office 2013対応版』オーム社。
- 情報教育学研究会・情報倫理研究グループ編(2013)『(新課程) インターネット社会を生きるための情報倫理』実教出版。その他の文献や資料は、適宜、授業で紹介いたします。

《授業時間外学習》

この科目では復習が重要です。修得した利用方法を他の授業でも生かせるように、日ごろからパソコンを利用する機会をつくりましょう。
 とくに、「文書作成」「データ処理」「プレゼンテーション」の実習では『まとめ課題』と『総合的な演習』があります。学習した成果を実践できるように準備しておいてください。

《備考》

学習環境として、2号館のコンピュータ実習室を利用します。また、小テストや課題提出にはeラーニングのシステムを利用します。

| | | | |
|---------------------------|---|----------|-------------|
| 科目名 | コンピュータ演習 | 科目ナンバリング | C1011L◆-003 |
| 担当者氏名 | 佐竹 邦子 | | |
| 授業方法 | 演習 | 単位・必選 | 2・選択必修 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 | | |

《授業の概要》

パソコンなどの情報機器やインターネットを使えることは現在の社会では必須の能力となっています。この授業では、学生生活のために必要な情報技術・知識を習得し、さらには将来にわたって長く役立つ知識を習得することも目指します。授業は毎回演習形式で行います。

《授業の到達目標》

コンピュータやインターネットが広く利用されている現在の社会で、将来にわたってそれらを使いこなしていくための基礎知識を身につけられる。メールやインターネット、各種アプリの基本的な使い方から、ネットワーク社会でのマナーも身につけられる。

《成績評価の方法》

授業に取り組む姿勢 20%
提出物 80%

フィードバック方法：オフィスアワーに質問を受け付けます。時間が合わない場合はメールで連絡を下さい。

《テキスト》

『学生のためのOffice2016&情報モラル』noa出版、2016

《参考図書》

- ・『ネット社会を賢く生きよう！最新情報モラル』日経BP社
- ・『Microsoft Word 2016 ドリル』FOM出版
- ・『Microsoft Excel 2016 ドリル』FOM出版
- ・『Microsoft PowerPoint 2016 応用』FOM出版

《授業時間外学習》

予習：テキストの該当箇所を読み、示されているYouTube動画を見る。操作のポイントをメモする。
復習：授業内で学んだ内容を繰り返し行い、習熟度を高める。

《備考》

- ・アクティブラーニング形式で行う場合があります。
- ・欠席した場合、次回までに必ず自習して追いついて下さい。
- ・過去プリント要求は、授業直前は控えて下さい。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|----------------------|---|
| 1 | オリエンテーション | シラバス内容を確認する。学内情報システムを理解する。実習室サインインアカウントを確認する。 |
| 2 | Windowsの基礎 メール(1) | Windowsの基本操作を知る。 Webメールで送受信する。 |
| 3 | メール(2) 情報検索 | メールのマナーを知る。 ネット検索を行う。 |
| 4 | 情報モラル | 著作権・肖像権を知る。 ネット上のコミュニケーションの特徴を理解する。 |
| 5 | 文書作成(1) | Wordの画面構成を知る。 文書を編集する。 |
| 6 | 文書作成(2) | レポートを編集する。 (ページ設定、表紙の作成、フッター、グラフの挿入) |
| 7 | Word課題 | Wordを用いた演習課題を行う。 |
| 8 | 表作成(1) | Excelの画面構成を知る。 表を編集する。数式を入力する。 |
| 9 | 表作成(2) | 関数(SUM, AVERAGE, ROUNDなど)を使う。 |
| 10 | グラフ作成 | グラフの種類と特徴を知る。 グラフを作成する。 |
| 11 | Excel課題 | Excelを用いた演習課題を行う。 |
| 12 | スライド資料の作成(1) | PowerPointの画面構成を知る。 スライドを作成する。 |
| 13 | スライド資料の作成(2) | スライドを効果的に見せる。 |
| 14 | PowerPoint課題 | PowerPointを用いた演習課題を行う。 |
| 15 | 総合課題 | これまでのまとめとなる課題を行なう。 |

| | | | | |
|---------------------------|--|-------|----------|-------------|
| 科目名 | コンピュータ応用演習 | | 科目ナンバリング | C1012L--058 |
| 担当者氏名 | 佐竹 邦子、稲富 恭 | | | |
| 授業方法 | 演習 | 単位・必選 | 2・選択 | 開講年次・開講期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 | | | |

《授業の概要》

保育の現場へのICT導入が進められています。ICTを使い業務の効率化やデータ分析ができれば、よりよい保育につながります。

この授業では「コンピュータ演習」で学んだことをベースに各種アプリの習熟度を高めることを目指します。より早く魅力的な文書を作成できるよう、また、各種データを分析できるようになりましょう。

《授業の到達目標》

- ・ビジネス文書、図で魅せる文書、差し込み文書を作成できる。
- ・Excelでデータベースを活用できる。
- ・伝わるグラフを作成できる。
- ・簡単なデータ分析ができる。
- ・効率化のための工夫ができる。

《成績評価の方法》

授業に取り組む姿勢 20%
提出物 80%

フィードバック方法：オフィスアワーに質問を受け付けます。時間が合わない場合はメールで連絡を下さい。

《テキスト》

『実践ドリルで学ぶ Office活用術 2016対応』noa出版、2016

《参考図書》

必要に応じ授業内で示します。

《授業時間外学習》

- ・予習：テキストの該当箇所を読み、示されているYouTube動画を見る。操作のポイントをメモする。
- ・復習：授業内で学んだ内容を繰り返し行い、習熟度を高める。

《備考》

- ・「コンピュータ演習」の修得を前提として授業を進めます。
- ・欠席した場合、次回までに必ず自習して追いついて下さい。
- ・教室設備の関係により履修者数を制限する場合があります。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|-------------------|--|
| 1 | オリエンテーション | 授業内容の説明。【必ず出席すること。履修希望者多数の場合、抽選実施する可能性あり。】文字入力の基本操作の確認、Word基本操作の復習 |
| 2 | Word活用術（1） | 文書の構成を知る。ビジネス文書のポイントを押さえる。表で分かりやすくまとめる。 |
| 3 | Word活用術（2） | 前回内容の練習、応用。 |
| 4 | Word & 画像編集アプリ（1） | 図で魅せる。画像編集アプリを使う。 |
| 5 | Word & 画像編集アプリ（2） | 前回内容の練習、応用。 |
| 6 | Word & 画像編集アプリ（3） | 実践例に取り組む。 |
| 7 | Excel活用術（1） | 書式をつけて見やすく編集。関数を使いこなす。伝わるグラフを作成する。 |
| 8 | Excel活用術（2） | 前回内容の練習、応用。 |
| 9 | Excel活用術（3） | データベースを活用する。視点を変えて集計する。 |
| 10 | Excel活用術（4） | 前回内容の練習、応用。 |
| 11 | Excel活用術（5） | 実践例に取り組む。 |
| 12 | Word&Excel活用術（1） | それぞれの特性を活かす。データを連携させる。 |
| 13 | Word&Excel活用術（2） | 前回内容の練習、応用。 |
| 14 | まとめ（1） | 総合実践例に取り組む。 |
| 15 | まとめ（2） | 総合実践例に取り組む。 |

《共通教育科目 歴史と文化》

| | | | |
|---------------------------|---|----------|-------------|
| 科目名 | 文学 | 科目ナンバリング | C1012L--005 |
| 担当者氏名 | 厚美 尚子 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 1-1 子どものありのままを受け入れる心 ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 | | |

《授業の概要》

日本児童文学の歩みに沿って、主に昭和初期までの代表的な作品を読む。それぞれの作品について、作家の来歴・作品の背景・これまでの評価などについて学ぶ。

《テキスト》

特になし。必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

《授業の到達目標》

毎回のミニレポート・期末レポートの執筆を通して、研究的視点を身につける。自分の意見を書く、他人の意見を聴く経験を通して、物事を多面的に捉える姿勢を身につける。

《授業時間外学習》

次回に取り上げる予定の作家の作品をあらかじめ読み、ミニレポート執筆の準備をしておくこと。

《成績評価の方法》

毎回の授業時間内に提出するミニレポート（45%）、期末レポート（55%）
 ※毎回執筆されるミニレポートは、次回の授業時にいくつか紹介し、コメントする。また、文中に質問があればその都度口頭で返答もしくはコメントを付して返却する。

《備考》

コミュニケーションをとりながら進めたいと思います。まずは作品を楽しく読むことから始めましょう。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|---------------------|---|
| 1 | 児童文学を学ぶことについて | わたしたちが児童文学を学ぶことに、どういう意味があるのか考える |
| 2 | 巖谷小波「こがね丸」を読む | 作品を読み、ミニレポートを執筆する。作家とその時代について学ぶ。 |
| 3 | 巖谷小波「こがね丸」を読む | 前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。 |
| 4 | 小川未明「赤い船」を読む | 作品を読み、ミニレポートを執筆する。作家とその時代について学ぶ。 |
| 5 | 小川未明「赤い船」を読む | 前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。 |
| 6 | 小川未明「赤い蠟燭と人魚」その他を読む | 小川未明のさまざまな作品を読み、ミニレポートを執筆する。 |
| 7 | 小川未明「赤い蠟燭と人魚」その他を読む | 前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。 |
| 8 | 芥川龍之介「蜘蛛の糸」を読む | 作品を読み、ミニレポートを執筆する。作家とその時代について学ぶ。 |
| 9 | 芥川龍之介「蜘蛛の糸」を読む | 前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。 |
| 10 | 有島武郎「一房の葡萄」を読む | 作品を読み、ミニレポートを執筆する。作家とその時代について学ぶ。 |
| 11 | 有島武郎「一房の葡萄」を読む | 前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。 |
| 12 | 宮沢賢治「どんぐりと山猫」を読む | 作品を読み、ミニレポートを執筆する。作家とその時代について学ぶ。 |
| 13 | 宮沢賢治「どんぐりと山猫」を読む | 前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。 |
| 14 | 坪田譲治「魔法」を読む | 作品を読み、ミニレポートを執筆する。作家とその時代について学ぶ。 |
| 15 | 坪田譲治「魔法」を読む | 前回ミニレポートの紹介。作品の背景やこれまでの評価などについて学び、改めてミニレポートを執筆する。 |

| | | | |
|---------------------------|--------------------------------|----------|-------------|
| 科目名 | 色彩学 | 科目ナンバリング | C1011L--006 |
| 担当者氏名 | 近藤 雅義 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 | | |

《授業の概要》

現代は生活環境の彩りを快適に暮らせるように思慮深く考える色彩化の時代であり、衣・食・住などの様々な生活環境において色彩の用い方に工夫が行われている。色彩の用い方を間違えると視覚上や心理面において不快感を感じさせる場合もある。授業では快い色の調和を得るには、どのように考えればよいのか、また色彩が私達の生活にどのような影響を与えるのか解説する。

《授業の到達目標》

色彩学の基本となる、「カラーシステム」「色の見え方」「色の感情効果」「配色調和論」等々の理論について学び、その色彩理論の知識を活用して色の組み合わせによる構成を考えることにより、色彩表現力を養い、色彩理論を応用できる能力を持つことを目標とする。理論を色でも理解することがこの授業のポイントである。

《成績評価の方法》

小テスト (50%)、カラーリング課題 (50%)
 ※各種カラーリング課題の作品について指導を行います。

《テキスト》

必要に応じてプリントを配布する。

《参考図書》

『生活と色彩』（朝倉書店）

《授業時間外学習》

「非常出口」の表示はベース（地色）のが白と緑色の2種類あるが、その違いは？フランスの国旗の青・白・赤、理髪店の赤・青・白のそれぞれの色は何を表わしているのか？子供の可愛い色はどのような色か注意して見ておくこと。

《備考》

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|----------------|---|
| 1 | 色彩と生活 | 色彩は日常生活でどのように活用されているのか、色彩の果たす役割を改めて見直す。 |
| 2 | 色の見え方 | 色彩は光が眼球に入り、それが網膜の視細胞により生じた刺激が、大脳に伝達され脳で感じているという色知覚について学ぶ。 |
| 3 | 色の感情効果（1） | 赤、橙、黄、青などそれぞれの色相もっている、色の感情効果について。 |
| 4 | 色の感情効果（2） | 色の連想、象徴について解説し、色の好みと性格について説明する。 |
| 5 | 色彩体系（カラーシステム） | 色彩学の基礎となる色の三属性を基に、カラーシステムの成り立ちを解説する。 |
| 6 | 色名 | 平安時代、江戸時代における、日本の伝統色名やヨーロッパの色名について理解する。 |
| 7 | 色のイメージ | 同じ人でも着用する色によってその人のイメージが異なる。どの様な色調がどの様なイメージ表現できるのかを学ぶ。 |
| 8 | 色の見え方の現象 | 日常生活において、同じ色でも見え方が異なる場合があり、それは何故その様な現象が起こるのか考える。 |
| 9 | 配色調和（1） | 美しい調和の配色を得るには、配色調和の基本形式を理解し、その調和理論に従って実際にカラーカードで配色を作成する。 |
| 10 | 配色調和（2） | 「可愛い」「落ち着いた」感じなど、色相、トーンなどのカラーシステムを基本に、自分が思い描くイメージをカラーカードで作成する。 |
| 11 | 色の伝達性 | 言葉とか文章ではなく、色だけによって何かを伝える事ができる。色が私達の行動に与える影響について事例をもとに説明する。 |
| 12 | 色彩と文化 | 国によって色の捉え方が異なることを説明する。例えばリンゴは日本では赤をイメージするがフランスではアップルグリーンという色名があるように全く異なる。 |
| 13 | 「衣」（ファッション）の色彩 | 各シーズン（春、夏、秋、冬）に発表される流行色はどの様につくられるのかについて解説する。 |
| 14 | 「食」の色 | 美味しそうに見える料理の配色について、また色と栄養価の関係から捉えた、食の五原色について説明。 |
| 15 | 「住」の色 | 「騒音」という言葉があるように、環境において「騒色」という言葉がある。それはどのようなことなのか解説する。 |

| | | | |
|---------------------------|---|----------|-------------|
| 科目名 | 日本国憲法 | 科目ナンバリング | C1012L◆-007 |
| 担当者氏名 | 笹田 哲男 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 | | |

《授業の概要》

日本国憲法の基本項目（「基本的人権の保障」「国民主権と権力の分立」「平和主義」など）について講義する。大学生として知っておくべき事項をできるだけ多く解説することに留意するが、「男女の平等」「子どもの学習権」及び「日本の防衛と国際貢献」については、とくに時間をとって、皆さんとともに検討したいと考えている。

《テキスト》

『改訂現代の法学—法学・憲法—』野口寛編著、建帛社、2009

《参考図書》

『憲法学教室全訂第2版』浦部法穂、日本評論社、2006
 『憲法第4版』辻村みよ子、日本評論社、2012

《授業の到達目標》

1. 「憲法(国家の基本法)とは何か」「日本の憲法のおいたち」について理解する。
2. 日本国憲法の主要な内容についての知識を獲得する。
3. 日本国憲法と現代社会とのかかわりについて、裁判例の研究を通じ具体的に理解する。

《授業時間外学習》

授業中、その都度、指示する。

《成績評価の方法》

授業時間外学習の成果として提出を求めるレポート30%、第15週の授業時間中に実施する筆記試験70%で、成績評価を行う。
 ※分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《備考》

法的思考を培い、現代社会を見る眼を養ってください。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|-------------------|--|
| 1 | 憲法とは何か | ①社会の規範、法の種類、法システム、②国家と法、憲法の意味・分類などについて説明することができる。 |
| 2 | 日本の憲法のおいたち | ①明治憲法の成立過程と特質、②日本国憲法の成立過程と特質について説明することができる。 |
| 3 | 平和主義（1） | ①前文の「平和主義」関係部分、第9条の内容について説明することができる。②第9条関係の主要な裁判例について説明することができる。 |
| 4 | 平和主義（2） | 「日本の防衛と国際貢献」のあり方を巡る議論について説明することができる。 |
| 5 | 人権の性格と歴史（1） | ①人権の特色・種類、②「消極的国家と自由権保障」「積極的国家と社会権保障」、③「人権の制約」などについて説明することができる。 |
| 6 | 人権の性格と歴史（2） | 日本国憲法下で、近代私法の3原則（「契約の自由」「所有権の絶対的保障」「過失責任主義」）に修正が加えられる例について説明することができる。 |
| 7 | 基本的人権の保障（1） | ①「法の下での平等」原則について、また、②「雇用労働と男女の平等」「家庭生活と男女の平等」などの現状と課題について、説明することができる。 |
| 8 | 基本的人権の保障（2） | 精神的自由権（「思想・良心の自由」「信教の自由」「表現の自由」「学問の自由」）の意義・内容などについて説明することができる。 |
| 9 | 基本的人権の保障（3） | ①経済的自由権、身体的自由権の意義・内容、また、②国務請求権の意義・内容などについて説明することができる。 |
| 10 | 基本的人権の保障（4） | ①社会権（「生存権」「教育を受ける権利」「労働権」）の意義・内容などについて説明することができる。②国民の義務について説明することができる。 |
| 11 | 基本的人権の保障（5） | ①「子どもの学習権と『教育内容を決定する権能』」、②「子どもの学習権と『教育の中立性』」を巡る議論、裁判例について説明することができる。 |
| 12 | 「国民主権」と「権力の分立」（1） | ①「象徴天皇制」の意義・内容、②選挙制度の内容、③「地方自治」の意義・内容について説明することができる。 |
| 13 | 「国民主権」と「権力の分立」（2） | ①国会の組織・権能、②内閣の組織・権能、③議院内閣制の内容などについて説明することができる。 |
| 14 | 「国民主権」と「権力の分立」（3） | ①司法権独立の意義、②裁判所の組織・権能、③司法の民主的統制、また、④「憲法の保障と改正」について説明することができる。 |
| 15 | まとめ | これまでの学習内容を再確認するとともに、その学習成果を具体的に説明することができる。 |

| | | | |
|---------------------------|--|----------|-------------|
| 科目名 | ジェンダー論 | 科目ナンバリング | C1011L--008 |
| 担当者氏名 | 吉原 恵子 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ◎ 1-3 保育をめぐる諸課題を察知し、情報収集し、解決へと導く力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-1 子ども・保育に関する様々な専門的知識 | | |

《授業の概要》

本講義では、「ジェンダー」概念と「ジェンダーの視点」の学習を通して、「女であること／男であること」の文化的・社会的側面について多面的に理解する。まず(1)諸データにより実態を把握し、次に(2)ジェンダーの視点を用いながら諸問題を批判的に見る目を養う。また、各分野のまとめにあたって、(3)作業シートによって、知識の定着を確認するとともに、社会問題へのジェンダーの視点によるアプローチを身につける。

《授業の到達目標》

- (1) ジェンダーについて社会的に語ることができる。
- (2) 日本社会の諸問題について統計データを用いて、ジェンダーの視点から説明できる。
- (3) 講義のなかから自分のテーマを見つけて、考えをまとめて、他の人に説明できる。

《成績評価の方法》

○毎回実施する「作業シート」の提出(配点:文章作成能力および知識の定着度45%) ○「学習のまとめ」シート(「持ち込み可」)を完成させること(配点:データを読む力、社会問題に取り組もうとする意欲、批判的視点等の獲得度:55%) ○試験やレポートにコメントを付して返却し質問を受け付ける。

《テキスト》

『女性のデータブック 第4版』井上輝子・江原由美子編

《参考図書》

『ジェンダーの社会学』江原由美子(放送大学教育振興会), 『ジェンダーで学ぶ社会学』伊藤公雄/牟田和恵編,(世界思想社), 『社会学がわかる事典』森下伸也(日本実業出版社), 『ジェンダー入門』加藤秀一(朝日新聞社), 『女性学・男性学』伊藤公雄/樹村みのり/國信潤子(有斐閣)

《授業時間外学習》

- (1) テキストの該当章を読んでから授業に臨んでください。
- (2) 毎回、授業内容の概要を説明したレジュメを配布します。授業のふり返りのためファイリングして活用してください。
- (3) 毎回のレジュメには学習内容に関するキーワードを提示します。これについて、授業後に復習して説明できるようにしておいてください。

《備考》

この授業では、講義内容をただ知識として暗記するのではなく、現実社会との関係のなかで理解するため、専門用語の図示・図解を行う演習を適宜取り入れる。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|------------------|---|
| 1 | ジェンダー論の基礎(1) | ジェンダーとは何か?(ジェンダー概念の誕生、ジェンダー論と学問領域、セックス/ジェンダーという二分法、知識社会学とジェンダーの社会学)について理解する |
| 2 | ジェンダー論の基礎(2) | 「性」の多様性と「女らしさ/男らしさ」の形成について理解する |
| 3 | 結婚・家族はどう変わったか(1) | 少子化社会、近代結婚制度、結婚の意義と配偶者選択:少子化とジェンダーについて理解する |
| 4 | 結婚・家族はどう変わったか(2) | 男の子育て/女の子育て:ケアとジェンダーについて理解する |
| 5 | 結婚・家族はどう変わったか(3) | 高齢者の生活実態:ケアとジェンダーについて理解する |
| 6 | 学習のまとめとワークショップ① | 「ジェンダー論の基礎、結婚・家族はどう変わったか」についてまとめる |
| 7 | 女の時間/男の時間(1) | アンペイドワーク、サービス経済と女性、M字型就労パターン:労働とジェンダーについて理解する |
| 8 | 女の時間/男の時間(2) | 非正規雇用、雇用管理、賃金格差:雇用とジェンダー:雇用とジェンダーについて理解する |
| 9 | 学習のまとめとワークショップ② | 「女の時間・男の時間」についてまとめる |
| 10 | 学校の中のジェンダー(1) | ジェンダー・バイアス、隠れたカリキュラム:教育とジェンダーについて理解する |
| 11 | 学校の中のジェンダー(2) | 進路形成と進学、専攻分野の分化:教育とジェンダーについて理解する |
| 12 | マスメディアとジェンダー | メディアのなかの女性像/男性像、メディア行動、メディア産業:情報社会とジェンダーについて理解する |
| 13 | 性・こころ・からだ(1) | 性意識と性行動、親密性とセクシュアリティ:性とジェンダーについて理解する |
| 14 | 性・こころ・からだ(2) | セクシュアリティと暴力、性の商品化:性とジェンダーについて理解する |
| 15 | 学習のまとめ | 「学校の中のジェンダー、マスメディアとジェンダー、性・こころ・からだ」についてまとめる |

| | | | |
|---------------------------|---|----------|-------------|
| 科目名 | 健康・スポーツ科学 I (講義) | 科目ナンバリング | C1012L◆●009 |
| 担当者氏名 | 長尾 憲樹 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 | | |

《授業の概要》

健康を考えながらスポーツをする上で必要な知識を学習する。

《テキスト》

第2版 『健康とスポーツを科学する』
 ☆これからの幸せを求めて
 監修：長尾光城、中央法規出版

《参考図書》

必要が生じた際に紹介する。

《授業の到達目標》

健康に役立つスポーツを実践し、これからの人生に有意義にチャレンジする基礎をつくる。

《授業時間外学習》

授業で得られた知識を、自分自身と家族について考えていく。

《成績評価の方法》

筆記試験70%
 (授業中に実施する小テスト、レポート課題
 および授業取り組みへの積極性) 30%

《備考》

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|------------|------------------------------|
| 1 | 健康とは？ | 健康の概念と体力から健康寿命を考える。 |
| 2 | 肥満 | メタボリックシンドローム等について学ぶ。 |
| 3 | 筋・骨格系とスポーツ | 筋肉と骨の基礎知識から健康との関連を考える。 |
| 4 | 栄養とスポーツ | 食事を通しての栄養素の必要性について学ぶ。 |
| 5 | サプリメント | サプリメントの位置づけを考える。 |
| 6 | メンタルヘルス | こころの健康とストレスについて学ぶ。 |
| 7 | スポーツとストレス | スポーツのストレス軽減効果について考える。 |
| 8 | 熱中症 | 熱中症対策について学ぶ。 |
| 9 | スポーツ障害 | スポーツ障害を分類し予防・再発防止について学ぶ。 |
| 10 | 発育期の身体活動 | スポーツ活動、体力の現状を考える。 |
| 11 | 青年期の身体活動 | 今の自分自身のスポーツ状況を考える。 |
| 12 | 高齢期の身体活動 | 生活習慣病予防、介護予防の運動について学ぶ。 |
| 13 | 超高齢期の身体活動 | スーパーオールドの身体活動から、遠い将来のヒントを探す。 |
| 14 | 生存の為の体力 | 天災時に避難する体力の必要性について考える。 |
| 15 | 学習のまとめ | 総合判定実施 |

《共通教育科目 くらしと健康》

| | | | |
|---------------------------|---|----------|-------------|
| 科目名 | 健康・スポーツ科学 I (講義) | 科目ナンバリング | C1012L◆●009 |
| 担当者氏名 | 兒玉 拓 | | |
| 授業方法 | 講義 | 単位・必選 | 2・選択 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ◎ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ○ 3-3 生涯にわたり必要な学びを続けようとする自己教育力 | | |

《授業の概要》

現代社会に直面する種々の身近な健康問題や疾患について講義を行う。併せてスポーツに伴う障害とその対策法についても併せて教授する。

《テキスト》

第2版 『健康とスポーツを科学する』
 ☆これからの幸せを求めて
 監修：長尾光城、中央法規出版

《参考図書》

必要が生じた際に紹介する。

《授業の到達目標》

トピックスとしての健康問題を理解するとともに疾病に対する予防や対処法について習得する。健康増進に必須であるスポーツの効用について理解しながら、効果的で安全な運動習慣の知識を深める。

《授業時間外学習》

授業で得られた知識を、自分自身と家族について考えていく。

《成績評価の方法》

筆記試験70%（授業中に実施する小テスト、レポート課題および授業取り組みへの積極性）30%

《備考》

講義ごとにプリントを配布する。

分からないことはオフィスアワー等で質問を受け付ける。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|----------------------|--|
| 1 | 食物アレルギー | 乳幼児に発症する卵アレルギーなどの原因を理解し、対応を学ぶ。 |
| 2 | 花粉症とアレルギー | スギ花粉などによるアレルギー性鼻炎の発症メカニズムを理解し、対処方法を学ぶ。 |
| 3 | 運動誘発喘息 | 気管支喘息患者に多発する運動誘発気管支収縮の実際を理解する。運動によって増悪する喘息の対処方法を学ぶ。 |
| 4 | 睡眠時無呼吸症候群 | 生活習慣病の増加に伴って睡眠時無呼吸症候群（SAS）が増加している。SASによる健康被害と治療法について学ぶ。 |
| 5 | インフルエンザ感染症 | インフルエンザ感染症の実際を知るとともに、爆発的流行が心配されている新型インフルエンザについて考える。 |
| 6 | HIV感染症とエイズ | 免疫機能を破壊するHIVの感染について学習するとともにエイズ患者との共生について学ぶ。 |
| 7 | 脳死と臓器移植 | 心臓死と脳死の違いについて理解するとともに脳死による臓器移植の実際について学ぶ。 |
| 8 | 救急医療 | 1次から3次救急の役割を理解する。3次救急で注目されているドクターヘリの運用について学ぶ。 |
| 9 | 喫煙と健康被害 | 喫煙の歴史について学習すると同時に、喫煙による健康被害について理解する。 |
| 10 | 節足動物による感染症 | 野外に存在するダニや蚊による感染症について学習する。併せてキャンプなどの野外活動の注意事項を理解する。 |
| 11 | 有害動物による健康被害 | 野外に存在するヘビなどの哺乳動物による健康被害について学習する。併せてキャンプなどの野外活動の注意事項を理解する。 |
| 12 | 高地でのエネルギー補給と高山病・落雷 | 登山における必要な水分やエネルギー補給量について学ぶ。登山におけるさまざまな物理・化学的な健康被害（落雷・高山病・火山ガス等）について理解する。 |
| 13 | 熱中症とその予防 | 暑熱環境下におけるスポーツ活動の危険性を理解するとともにその予防法を学ぶ。 |
| 14 | 妊娠女性の高齢化と生殖補助医療（ART） | 高齢出産の実際について学ぶ。併せて、対外受精による生殖補助医療（ART）の可能性と問題について理解する。 |
| 15 | 筆記試験 | 本科目の理解度を把握するために試験を実施する。 |

| | | | |
|---------------------------|--|----------|-------------|
| 科目名 | 健康・スポーツ科学Ⅱ（実技） | 科目ナンバリング | C1011L◇●010 |
| 担当者氏名 | 永井 夕起子 | | |
| 授業方法 | 実技 | 単位・必選 | 1・選択必修 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 | | |

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>

シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。

<復習方法>

実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。ノート・レポート・テストにはコメントを付して返却する。

毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)

随時テーマに対するレポート提出(20%)

学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|------------------|---|
| 1 | 授業オリエンテーション | 授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。 |
| 2 | 体力テスト（1回目） | 文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。 |
| 3 | ①屋内種目（体育館） | バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。 |
| 4 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。 |
| 5 | ③屋外種目（グラウンド） | ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。 |
| 6 | ①屋内種目（体育館） | 前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施 |
| 7 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | 前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺） |
| 8 | ③屋外種目（グラウンド） | 前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド） |
| 9 | ①屋内種目（体育館） | 前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施 |
| 10 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | 前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺） |
| 11 | ③屋外種目（グラウンド） | 前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド） |
| 12 | ①屋内種目（体育館） | 前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施 |
| 13 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | 前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺） |
| 14 | ③屋外種目（グラウンド） | 前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド） |
| 15 | 体力テスト（2回目） | 文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。 |

《共通教育科目 くらしと健康》

| | | | |
|---------------------------|--|----------|-------------|
| 科目名 | 健康・スポーツ科学Ⅱ（実技） | 科目ナンバリング | C1011L◇●010 |
| 担当者氏名 | 三宅 一郎 | | |
| 授業方法 | 実技 | 単位・必選 | 1・選択必修 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・I期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 | | |

《授業の概要》

屋内と屋外スポーツを同時に進行する。時間単位で種目を選択し、毎時間ゲームを取り入れて各種目の応用技能を習得する。

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。また、各スポーツの基礎技能とルールを学習し、スポーツそのものを楽しむことを目的とする。

《授業時間外学習》

<予習方法>

シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。

<復習方法>

実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《成績評価の方法》

毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。ノート・レポート・テストにはコメントを付して返却する。

毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)

随時テーマに対するレポート提出(20%)

学期末にまとめのレポート提出(30%)

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|------------------|---|
| 1 | 授業オリエンテーション | 授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。 |
| 2 | 体力テスト（1回目） | 文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。 |
| 3 | ①屋内種目（体育館） | バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球等の中から1種目実施。 |
| 4 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク等の中から1種目実施。 |
| 5 | ③屋外種目（グラウンド） | ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール等の中から1種目実施。 |
| 6 | ①屋内種目（体育館） | 前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施 |
| 7 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | 前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺） |
| 8 | ③屋外種目（グラウンド） | 前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド） |
| 9 | ①屋内種目（体育館） | 前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施 |
| 10 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | 前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺） |
| 11 | ③屋外種目（グラウンド） | 前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド） |
| 12 | ①屋内種目（体育館） | 前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施 |
| 13 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | 前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺） |
| 14 | ③屋外種目（グラウンド） | 前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド） |
| 15 | 体力テスト（2回目） | 文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。 |

| | | | |
|---------------------------|--|----------|-------------|
| 科目名 | 健康・スポーツ科学Ⅲ（実技） | 科目ナンバリング | C1012L◇●011 |
| 担当者氏名 | 永井 夕起子 | | |
| 授業方法 | 実技 | 単位・必選 | 1・選択必修 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 | | |

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていくなかで、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。ノート・レポート・テストにはコメントを付して返却する。
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
 随時テーマに対するレポート提出(20%)
 学期末にまとめのレポート提出(30%)

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》

<予習方法>シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
 <復習方法> 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|------------------|--|
| 1 | 授業オリエンテーション | 授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。 |
| 2 | 体力テスト（1回目） | 文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。 |
| 3 | ①屋内種目（体育館） | バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。 |
| 4 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。 |
| 5 | ③屋外種目（グラウンド） | ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。 |
| 6 | ①屋内種目（体育館） | 前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施 |
| 7 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | 前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺） |
| 8 | ③屋外種目（グラウンド） | 前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド） |
| 9 | ①屋内種目（体育館） | 前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施 |
| 10 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | 前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺） |
| 11 | ③屋外種目（グラウンド） | 前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド） |
| 12 | ①屋内種目（体育館） | 前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施 |
| 13 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | 前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺） |
| 14 | ③屋外種目（グラウンド） | 前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド） |
| 15 | 体力テスト（2回目） | 文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。 |

《共通教育科目 くらしと健康》

| | | | |
|---------------------------|--|----------|-------------|
| 科目名 | 健康・スポーツ科学Ⅲ（実技） | 科目ナンバリング | C1012L◇●011 |
| 担当者氏名 | 三宅 一郎 | | |
| 授業方法 | 実技 | 単位・必選 | 1・選択必修 |
| | | 開講年次・開講期 | 1年・Ⅱ期 |
| ディプロマポリシーに基づいて重点的に身につける能力 | ○ 2-1 子どもをはじめとする他者とのコミュニケーション力 ○ 2-2 子どもや保護者、地域社会への適切な援助を実現する力 ◎ 2-3 自己の信念を持ちつつ他の保育者と協働する力 | | |

《授業の概要》

授業の最初に身体組成の計測と体力テストを実施し、自分の体力の現状を把握する。次に、各自が取り組むスポーツ種目を選択し、その間の積極的な行動が授業の最終日に行う体力テストに反映できるようなプログラムを構築していく。さらには、ルールに基づいた各種のスポーツ活動を行っていきながら、技術、体力、戦術などについて理解を深めるとともに、生涯スポーツ実践の能力を身につける事を目的とする。

《授業の到達目標》

自己のライフステージや心身の状態に適したスポーツ活動を生活の中に取り入れ、豊かなライフスタイルを形成するための能力を身につける。

《成績評価の方法》

毎時間積極的かつ真面目に授業に参加することを望む。ノート・レポート・テストにはコメントを付して返却する。
 毎時間の受講成果をノートにまとめて提出(50%)
 随時テーマに対するレポート提出(20%)
 学期末にまとめのレポート提出(30%)

《テキスト》

特になし。必要に応じて資料等を配布する。

《参考図書》

『スポーツスキルの科学』宮下充正（大修館）
 『からだロジー入門』宮下充正（大修館）

《授業時間外学習》

<予習方法>シラバスの授業計画を確認し、次時に実施する種目特性やルールを確認しておくこと。
 <復習方法> 実施した運動特性やルールを確認し、生涯スポーツの実施種目に付け加えて欲しい。

《備考》

服装は、運動に適したものとする（平服は不可）。シューズは屋内用と屋外用を準備し、実施場所に応じて使用すること。天候の都合により実施種目の変更はその都度連絡する。

《授業計画》

| 週 | テーマ | 学習内容など |
|----|------------------|--|
| 1 | 授業オリエンテーション | 授業の実施方法や注意事項や評価方法等を知る。 |
| 2 | 体力テスト（1回目） | 文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。 |
| 3 | ①屋内種目（体育館） | バレーボール・バスケットボール・バドミントン・インディアカ・卓球 等の中から1種目実施。 |
| 4 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | テニス・ターゲットバードゴルフ・ペタンク 等の中から1種目実施。 |
| 5 | ③屋外種目（グラウンド） | ウォーキング・ジョギング・サッカー・ソフトボール 等の中から1種目実施。 |
| 6 | ①屋内種目（体育館） | 前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施 |
| 7 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | 前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺） |
| 8 | ③屋外種目（グラウンド） | 前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド） |
| 9 | ①屋内種目（体育館） | 前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施 |
| 10 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | 前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺） |
| 11 | ③屋外種目（グラウンド） | 前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド） |
| 12 | ①屋内種目（体育館） | 前週③実施グループ→①屋内種目（体育館）を実施 |
| 13 | ②屋外種目（テニスコート・周辺） | 前週①実施グループ→②屋外種目（テニスコート・周辺） |
| 14 | ③屋外種目（グラウンド） | 前週②実施グループ→③屋外種目（グラウンド） |
| 15 | 体力テスト（2回目） | 文部科学省の新スポーツテストを用いて体力測定を行い自己の体力レベルを知る。 |